



●四日市支部●

リョーケン
一級建築士事務所

- 所在地：〒512-0932 四日市市小生町873番地
- TEL：059-320-0808
- FAX：059-320-0809
- 代表者：片洲 喜郎 開設者 加藤 良輔
- 設立：平成11年8月5日

「共に、未来を創る」を合言葉に、地域に根差した建設業者としてこれまで歩んでまいりました。マンションの建設及び改修、店舗の設計・施工を中心に、これからも皆様に愛される企業であり続けたいと願っております。大規模建設から小さな修繕まで、どんなご依頼にも対応できる組織力が弊社の強みです。これからも皆様と「共に、未来を創る」企業の一員として全力で取り組んでいく所存です。



事務所
紹介

- 所在地：〒519-0314 鈴鹿市長澤町 1176-1
- TEL：059-371-8038
- FAX：059-371-8039
- 代表者：古川 悦生
- 設立：平成10年3月8日

●鈴鹿支部●

EFT建築
設計事務所



この時期は地元の秋祭りのポスターを製作中です。2015年はこのデザインで行くことにしました。ポスターは法の規制を受けないので建築設計より楽しいかも。ただ仕事の合間にしかできないので例年あまり時間をかけられず、ゆっくり練れないのが残念。





- 所在地：〒514-0008 津市上浜町3丁目 15-2 Dear Homes 志とも 405
- TEL：059-271-7734
- FAX：059-271-7754
- 代表者：田中 召剛
- 設立：平成23年2月18日

●津支部●

類建築設計事務所



事務所を開設してようやく5年目を向かえ事務所も移転し、心機一転業務に邁進しております。建築とは畑違いの道を進んできた私にとって、今こうして設計の仕事をしている事、そして自分の事務所を構えることができたのも、皆様に支えられての事と感謝しております。初心を忘れる事なく、これからもお客様の要望にかなった納得していただける設計を心掛けて、日々努力していきたいと思えます。

事務所紹介

New face

新入会員紹介



JSRエンジニアリング
一級建築士事務所

代表者 ■ 橋本繁実 (管理建築士)
野田悦男 (開設者)
住所 ■ 〒510-0871 三重県四日市市川尻町100番地
TEL ■ 059-345-8100
FAX ■ 059-345-8185

■ JSRグループのエンジニアリング会社として、グループ各社への設備工事を通して社会に貢献してゆきたい。



有限会社 大幸
一級建築士事務所

代表者 ■ 細野勝雅 (管理建築士)
細野勝巳 (開設者)
住所 ■ 〒514-1104 三重県津市久居持川町2348-8
TEL ■ 059-255-0728
FAX ■ 059-255-5728



株式会社 阿波設計事務所
三重支店

代表者 ■ 百永美巳 (管理建築士)
瀬尾忠治 (開設者)
住所 ■ 〒515-2522 三重県津市一志町波瀬6588-2
TEL ■ 059-295-2028
FAX ■ 059-295-2029



目 安 箱

組織の継承と将来

松阪支部 伊藤 達也

〔会員の皆様へ「会員増強至上主義」をお願い致します〕

建築界の人材・担い手不足、建築士事務所の減少は、足音が響いてくる段階から、肌で感じるほど身近に近づき、避けて通れない重要な問題となっています。事務所が次々と廃業減少していく中、組織の継承と将来を考えての、更なる会員獲得は、委員の皆様の気苦労働、染み込むように伝わってきているのが現状です。新しい会員獲得に向けて、より深く掘り下げ様々な工夫を凝らされ、顔見知りで無い間柄であっても、まず新しい人間関係と仲間を作る観点で、

徐々に集まる機会や懇親会などを計画し、配慮されている支部もあります。様々な厳しい環境にありながら、会員の皆様には、多大なご理解とご協力を頂き、ご指導ご鞭撻を賜り誠に有難うございます。

私自身、入会当初は保守的・伝統的・閉鎖的で、馴染みが薄く感じました。しかし、安定した業務、適切な報酬について考える事の重要性、自らの目標実現、事務所としての成長はとても大切である事を教えられました。また、当協会は、建築士事務所の職能を生かし、業務を通じて適切な報酬を得て、地域社会に貢献していくというような、建築団体の中で、最も重要で素晴らしい団体だと確信しています。

最後にもう一言、会員獲得の際、説明資料として会員の為のメリットに関するチラシを配布していますので、引き続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。

越流堤ってなに？

伊賀支部 三浦 吉光

私は、伊賀市の北西部の一級河川の木津川の北岸に位置する場所に住んでおり、又、事務所も自宅のすぐ近くにあります。

事務所のすぐ前には木津川があり、その1キロほど上流にはもう1つの服部川との合流地点があり、その付近に今年になって大きなコンクリート構造物が姿を現したのです。

そもそも私の暮らすこの木津川の岩倉狭上流地区では、狭窄部が支障となり、昭和28年の台風以降度々浸水に依る被害に及び、その被害解消の目的で四十数年かけて今年の6月に完成した「上野遊水地」の重要な構造物であります。

この上野遊水地は木津・服部両河川の周辺にある小田、長田、木興と新居地区に設けた4つの遊水池から成り、広さが計248万5000平

方メートル。貯留できる容量は約900万立方メートルと、この規模は日本一で、遊水池と周囲の土地を取り囲んでいる「周囲堤」と、遊水池と河川の間にある「本川堤」の総延長は18・3キロにも及びます。

4つの遊水池には本川堤の一部を低くし、洪水が一定水位以上になった時に遊水池内に自然流入させる重要な役割を果たす巨大なコンクリート構造物これを「越流堤^{えつりゅうてい}」と呼びます。

グーグルマップの航空写真によれば、伊賀上野城を中心に西側を南から北に向かって流れるのが木津川で、そこに左右2箇所、また、北側の東から西に向かって流れる服部川にも左右2箇所、形状は和楽器の鼓（ツツミ）の中央を伸ばした様な形をしているのがわかります。

付近にある工場の建物と比較すれば、スケールの大きさがわかると思います。

40数年かかって完成したこの遊水地、これからは私達を浸水から守ってくれることを大いに期待しています。



健康に感謝

志摩支部 向井 照雄

50 才になった時、新たな気持ちで頑張ろうと思った矢先、健康診断を受けましたら、「あなたは C 型肝炎の疑いがあります」とのことでした。インターフェロン治療はいろいろ副作用があると聞いていたので躊躇しましたが、よくならないなら治療に入ろうと決心をしました。さすがに 1 日 4 時間の副作用による苦痛はきつく感じましたが、どうにかやり終えた結果はだめとなり、次の治療法を考えなければならなくなりました。家内の協力をえて食事療法と注射を 5 年間続けましたが、その間に医療も発達し

70%の確率で C 型肝炎が治癒するというところで再度治療にはいりました。2 回目のチャレンジは不思議と副作用はなく支障なく仕事でしたが、あとはウイルスがなくなるのを期待しながら 1 年半続けました。結果は OK となり気持ち晴ればれました。それから 2 年たった頃から毎朝動悸が出るようになり目眩が起こるようになりました。だんだん症状がひどくなり病院で検査の結果心房細動ということでほっておくと脳に血液が届けられなくなり脳梗塞の心配があるとのことで手術を選択せざるを得なくなりました。今や私の体は病気の倉庫かと思いつつ手術を行いました。手術後は健康そのもので仕事に専念出来てます。健康で仕事をするのは当たり前と考えていた以前と違い病後は健康のありがたみが十分分かりました。皆様も健康に十分注意して仕事を頑張ってください。



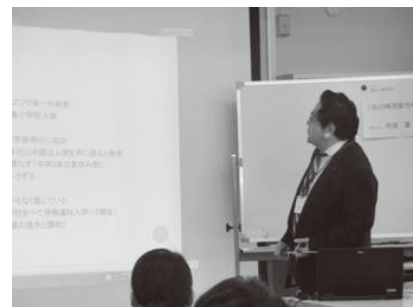
未来の建築士たちに

伊勢支部 佐藤 薫

機会があって先日、キャリアガイダンス『ようこそ先輩！伊勢高版』に参加し『街の構造屋さん、私の 38 年の経験を通じて』として、全 13 講座の中から選択してくれた 21 人の高校 1 年生の前でお話をしてきました。話をいただいてから当日までの一か月あまり、何を話したらいいのか迷いました。

そのころ事務所協会伊勢支部でも、会員事務所の年齢構成の調査をし、若手建築士の育成の問題を話し合っていました。高校で話をする直前には、伊勢市役所と伊勢支部の懇談会を行い、その中でも若手建築士の育成の話をしたところでした。高校生の前で、まさかネガティブな話はできません。建築設計の仕事が素晴らしくやりがいのある仕事であると胸を張って話してきました。自分が経験したこと、高校生の時どう思ってこの仕事を選択したか、などを思い出しながら話しました。

準備していると、文字だけのスライドでは間が持たないし何か建物の写真も入れなければ



と、進路選択のころ自分がどんな建物に興味を持ったかと思いだしながら建物の資料をそろえました。私は高校生のころ、大学の学部・学科選択の時には建築についての具体的知識も、それを教えてもらう大人も周りにはいませんでした。ただ父親（海の養殖業）の『単独か少数で出来る仕事がいい』という強い勧めで、建築に進みました。私が高校生や大学の教養時代にこれと思った建物は、構造の美しさが前面に出た建物であったことがいまさらの発見でした。

建築設計の中での構造設計とは何かの説明のために、授業の直前に話題になった杭打ち工事の問題から入り、地震の被害と構造規定の整備の歴史を話したり、校舎に施工されている耐震補強を例にとって、既存建物の耐震補強の話をしたりと、何とか役目の時間を過ごしました。